

## 津波災害（越村俊一）

### 参考文献

- 1) 越村俊一，復興まちづくりにおける津波数値シミュレーションの活用，復興（5号）Vol.4 No.1, pp.93-97,2012

低平地における津波被災地の復興には，最大クラスの規模の津波も考慮して減災対策を進めるとともに，土地利用の考え方を改め，津波に強いまちへの転換を果たさなければならない．本稿は，沿岸部の海岸保全施設の高さ・配置，都市計画，土地利用計画が津波に強いまちとして機能しうるかを評価するためのツールとして，数値シミュレーションの意義を論じた．

- 2) 越村俊一，郷右近英臣，福岡巧巳，林 里美，リモートセンシングによる 2011 年東北地方太平洋沖地震津波の広域被害把握，日本地震工学会論文集，第 12 巻，第 6 号(特集号)，pp.50-62, 2012.

災害発生直後の緊急対応や被災地救援・復旧など，災害巨大地震災害発生直後の最も重要な課題は被害の全容把握（広域被害把握）である．本稿は，広域被害把握のための技術体系を構築するために，衛星画像解析による津波浸水流況の把握，浸水域内建物棟数の推計，航空写真の判読による建物被害の把握，航空写真・衛星画像による瓦礫量の把握という，4つの技術を提案し，2011 年東北地方太平洋沖地震津波災害におけるケーススタディを通じて，その有効性と課題を論じた．

- 3) 越村俊一，行谷佑一，柳澤英明，津波被害関数の構築，土木学会論文集 B, Vol.65, No.4, pp.320-331, 2009.

津波被害関数とは，津波による建物被害や人的被害の程度を被害率（または死亡率）として確率的に表現し，津波浸水深，流速，波力といった津波の流体力学的な諸量の関数として記述するものである．この被害予測の考え方は，東日本大震災以降の津波被害想定でも利用されている．